



英語などを交え、楽しそうに交流する生徒たち

## 国境を越え生徒同士が交流 川根高校に上海師範大学附属中が訪問

以前、東海大翔洋高校で実施されていた中国の上海師範大学附属中学校（以下上海中学校）との交流事業。自然の豊かな地域にぜひ訪問したいという同校の希望により、川根高校に打診があったのが昨年冬のことで、川根高校側でも「ぜひに」と受け入れを快諾。このほど、国境を越えた交流が実現しました。

「川根高校では以前、修学旅行で台湾の高校を訪問しました。その際、現地の高校生に熱烈な歓迎を受け、感動したんです。本校での受け入れは初の試みですが『来て良かった』と思ってもらえるよう、精一杯もてなしたいと考えています」と、河原崎校長、林副校長は口を揃えて話しました。

今回来校したのは上海中学校

の14歳から17歳の生徒38人。5日、静岡空港に降り立った生徒たちは、大井川鐵道臨時SL列車と観光バスを乗り継ぎ、川根高校を訪問しました。

川高体育館で開催された歓迎会では、川高1、2年生が上海中学校生徒を拍手で出迎え、互いに英語で「歓迎の言葉」「お礼の言葉」を述べ合いました。

6日は、上海中学校生徒が川高生徒と一緒に古典や簿記などの授業を体験。その後、体育の授業にも参加し、一緒に学びの場やレクリエーションなどを楽しみました。

今回の学校交流について、上海中学校生徒に尋ねると「日本の高校の授業を受けられるとは思っていませんでした。とても楽しい時間を過ごせた」「特別な体験ができた。すごく

川高生徒会長が歓迎の言葉



一緒に体育を楽しんだ



いいことだと思う」と話していました。川高生徒も「授業などの交流を通して打ち解けることができ、楽しかった」と話すなど、充実した2日間を過ごしました。

この町に起こった  
新鮮な「ネタ」を皆さんの元へ。  
この次に登場するのは  
あなたかも!?

## 自然薯の準備が着々と進む

### 農林業センターで今年も自然薯栽培が

農林業センター（地名）では、今年も自然薯の栽培が始まりました。2月中旬、幅10センチ、長さ1メートルの波板を、赤土と共に埋める作業をしています。この波板は、1本の通りに130枚、計36通りを畑2枚に埋め込むという途方もない作業。3月上旬ごろからむかごを植え付け、種いもになるのが今年の秋。本いもの収穫は翌年の秋です。優良品種の継続栽培と、農家への優良苗の販売を目的として、今日も作業は続いています。



2年越しの自然薯栽培。どんな手ができるか楽しみみです

## 林業施業の効率化を目指し

### 森林組合おおいがわでプロセッサ導入

森林組合おおいがわでは「プロセッサ（造材機械）」を導入しました。同組合では、「農山漁村活性化プロジェクト支援交付金」を活用し、林業の低コスト化を目指した高性能林業機械による新しい施業に取り組みます。崎平地区、奥泉地区、東藤川地区では、まとまったエリアで間伐や木材生産をしていく事業（集約化、団地化）を検討するなど、積極的な林業が展開され始めています。



導入されたプロセッサ。施業効率化が図られます

静岡県無形民俗文化財指定の梅津神楽は1月16日、接叺峡温泉会館で奉納されました。

梅津神楽は、こだま石神社、若宮神社に550年前から伝わる神事。1972（昭和47）年に静岡県無形民俗文化財の指定を受け、毎年1月の第3週土曜日に梅津神楽保存会によって奉納されています。

当日は、佐藤公敏町長が舞う「幣の舞」で幕を開けました。大学時代から神楽保存会に携わっている佐藤町長。優雅な舞が、会場を沸かせました。

このあと深夜1時過ぎまで16の舞が披露され、地域の安全や五穀豊穰を祈願しながら奉納されました。

梅津神楽は、舞い手と笛、太鼓、観客が一体となって演じられ、ほかの神楽にはない魅力があるといわれています。毎年、町外から梅津神楽を目当てに訪れる常連客も多く、会場につめかけた観客たちは、優雅な舞を堪能し、大きな拍手を送っていました。

## 伝統を受け継ぐ優雅な舞を

### 接叺峡温泉会館で梅津神楽奉納1・16



「八幡の舞」を堪能する観客たち

## Topics

### 川根本町の まちの話題